

## 県内の新規就農者を対象に現地視察研修会を開催しました

令和6年3月5日、農業の担い手育成支援事業の視察研修会を開催しました。当事業では、県内の畜産農家新規就農者（農業セミナー生：当日参加者8名）を対象に、定期的に巡回で農業セミナーを開催するほか、今回4年ぶりに集合で視察研修会を開催しました。

視察先の一カ所目は相模原市で、大規模にブランド鶏卵を生産する（有）小川フェニックスです。ブランド鶏卵を生産する一方、六次産業化に取り組んでいます。現地では鶏卵の集出荷場の稼働状況を見学し、その後、直売所兼レストランにおいて、従業員の方のお話を聞きました。特に六次産業化への取組は、都市化が進む地域で住民の理解を得ながら、共存していくために開始したとのことで、ひっきりなしに訪れるお客さんの姿を見ながら、狙いどおりに成功している事例だと参加者一同実感しました。帰りのバスの車中では、視察先の店舗で販売しているお弁当やシュークリームを食べながら、参加者の意見交換が行われました。

二カ所目は平塚市で大規模酪農経営を展開している片倉牧場で、牧場内の様子を見学しながら、ジャージー種を利用した特徴ある生乳生産や、使用している飼料の説明等について牧場主からお話を聞きました。特に、今後展開する省力化設備（哺乳ロボット）の説明が印象的であり、参加者からも多数質問があり、今後の経営を考えるうえで、新規就農者への良い刺激になったようです。

また、当所から「Brix糖度計による初乳のIgG量の推定と子牛の初乳給与改善」について情報提供を行ったところ、片倉牧場の従業員も作業の手を休めて参加し、新規就農者との意見交換もあり、有意義な視察研修会となりました。

ここ数年は新型コロナの影響により視察研修の開催を見合わせていましたが、今回参加した新規就農者は視察先と活発に意見交換を行っており、経営内容や経営環境は違うものの、視察研修会が生産者相互の交流のきっかけになりました。

当所では、新規就農者の経営がより発展するよう、今後も支援を続けていきます。



養鶏農家取り組む視察6次産業化店舗の視察



ジャージー種を利用した生乳生産に取り組む酪農家の視察